

安佐南区役所芸術展示 作品解説

【本作品の展示期間：2021年3月1日から約1年間】

日本画展示作品「Weathering」

2018年 F8号 <材質>石州紙、岩絵具、膠

岡田 志保 (OKADA Shiho)



枯れかけていたシダの葉の色合いのグラデーションに魅力を感じたことが動機となり、制作するに至った作品です。また、風にさらされながら枯れていく様子に、風化という言葉と共に、植物化石が連想されたため、この作品も化石となった植物が、徐々に風化していくような印象となるように岩絵具の塗り重ね方を工夫して描きました。

油絵展示作品「光の秘密」

2021年 F6号 <材質>キャンバス、油絵

宍戸 啓 (SHISHIDO Hiraku)



夜に1人で散歩している時に川の水面に映る街灯の光がいつも気になっていた。何故気になるのか考えてみたが、自分でもよくわからなかった。しかし、揺れ動く光には何か重要なことが隠されているような気がした。それは一体何なのか深く考え、感じてみたいと思い、この作品を描いた。

工芸展示作品「麝香曼珠沙華一本簪」

2020年 幅 350mm×奥行 200mm×高さ 340mm (台座含む)

<材質> 銅、真鍮、925銀、金箔、色箔、ケヤキ



岡田 華佳 (OKADA Haruka)

かんざしの起源は「挿頭 (かざし)」
「花挿し」とも言われ、神事において髪
や冠に生命力があるとされる花を挿し、
魔除けとしていたことから。彼岸花と麝
香揚羽は両者ともに、美しさの裏に天敵
から身を守り、生き抜くための毒をも
つ。身につけることで、魔を祓い、強く
生きるまじないとなりますように。
技法面では、擦り出しやタガネによる造
形技法を用い、特に緋銅は色上げ後に火
を使えないので、めしべで花を挟み茎に
差し込む、ネジによる組み立て式にし
たりと工夫した。揚羽は真ん中の茎から取
り外しが可能で髪に二本挿しできる。

彫刻展示作品「Land and sea」

2020年 縦 30×横 35×高さ 20cm

<材質> セラミック



大江 里実 (OE Satomi)

風が吹くと草木はそよぎ、海に波
が立つように、自然は相互作用を繰り返して常に変化しています。宙に浮かんだ孤島のように海と陸は姿を現し、普段は目に見えない地中も外と内の両方からの影響を受けて、それらに呼応するように表情を変えます。地表との光の対比や、変化し続ける自然の動きをテクスチャーにこだわって制作しました。